

○出土遺物

今回の調査では各トレンチで埴輪片等の出土がありました。出土量は全体で2箱分です。

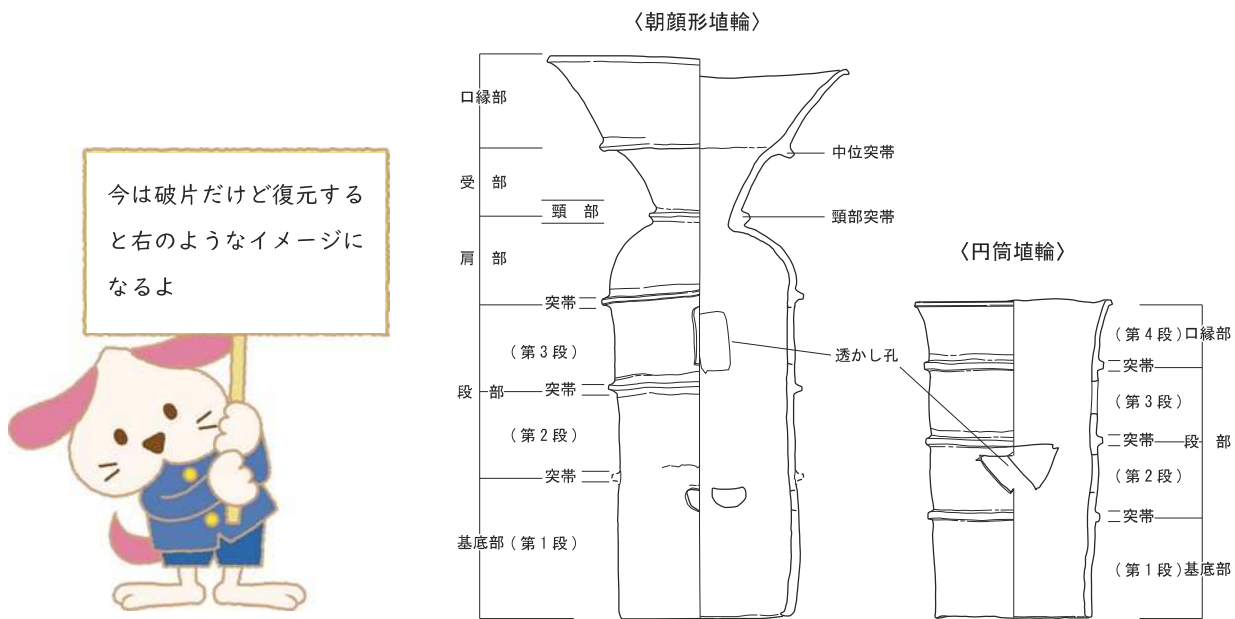
≪ T1 ≫

T1 で出土した埴輪は主に円筒埴輪と朝顔形埴輪からなります。全形や底部の高さ、突帯間の距離が分かる個体がないため詳細な情報は分かりません。破片資料から胴部の透かし孔は円形であったと考えられます。焼成については、器壁が広く黒化するものがあり、野焼きされたことがわかります。残念ながら形象埴輪と確定できる個体はありませんでした。また、2段目平坦面付近からは土師器の破片が見つかっており、墳頂祭祀に使用された可能性があります。いずれも本来の位置から離れた状態で見つかっています。

≪ T2 ≫

T2 でも埴輪が見つかっており、円筒埴輪と朝顔形埴輪のみが確認できました。こちらもT1と同様で全形や底部に高さが分かる個体はありませんでした。

小盛山古墳の埴輪の特徴として、一部の個体の胎土が粗いことが挙げられます。1～2mm程度の長石や石英といった鉱物が多く含まれていることが確認できます。周辺の古墳等では見られない胎土であると指摘できます。



岡山市教育委員会広報専門官「こらぼん♪」

図5 各部埴輪の名称

○さいごに

小盛山古墳は、全国でも稀な全長約100mの大規模な円墳です。今年度、初めて発掘調査を実施し、墳丘構造や段築の状況の一端を掴むことができました。今回得たデータは墳丘の規模や形を復元する上で重要な成果と言えます。また、これまで報告された資料の少なかった埴輪についてもある程度確認することができました。これらの埴輪は今後、小盛山古墳の年代を考えるうえで重要な資料のひとつと言えます。岡山市教育委員会は未だ謎の多い小盛山古墳の実態解明に向けて今後も発掘調査を継続していきます。

小盛山古墳 発掘調査現場公開資料

令和8年6月29日～7月3日

於・小盛山古墳（発掘調査現場）

岡山市教育委員会・岡山市埋蔵文化財センター

○はじめに

岡山市教育委員会では、小盛山古墳の範囲確認調査を5月中旬より進めており、この度、確認された遺構および遺物を一般に公開するはこびとなりました。今回の発掘調査では、墳丘と造り出しに調査区を設定し、墳丘の規模や構造の解明を目指しました。調査の結果、墳丘の段構造の一端を把握したほか、造り出し部で葺石を確認しました。

○小盛山古墳の概要

小盛山古墳は、全長約100mを測る造り出し付き円墳です。4世紀後半に築造されたと考えられており、円墳としては、全国最大級の規模を誇ります。

当古墳は、昭和53年に、周辺の池の改修に伴い、造り出しから採土し、一部はブルドーザーが入るといった事態が発生しました。この際、造り出し上に円筒埴輪列があったことが確認されています。また、墳頂部では、果樹園開墾時に鉄刀・鉄剣が見つかったと伝わっています。

これまで発掘調査は行われておらず、その正確な規模や時期については不明な点が多い状態がありました。そこで、岡山市教育委員会は、本市が提唱する「新たな倭国論」の検証を目的とした、未指定古墳の実態解明に向けて令和8年度から発掘調査を開始しました。

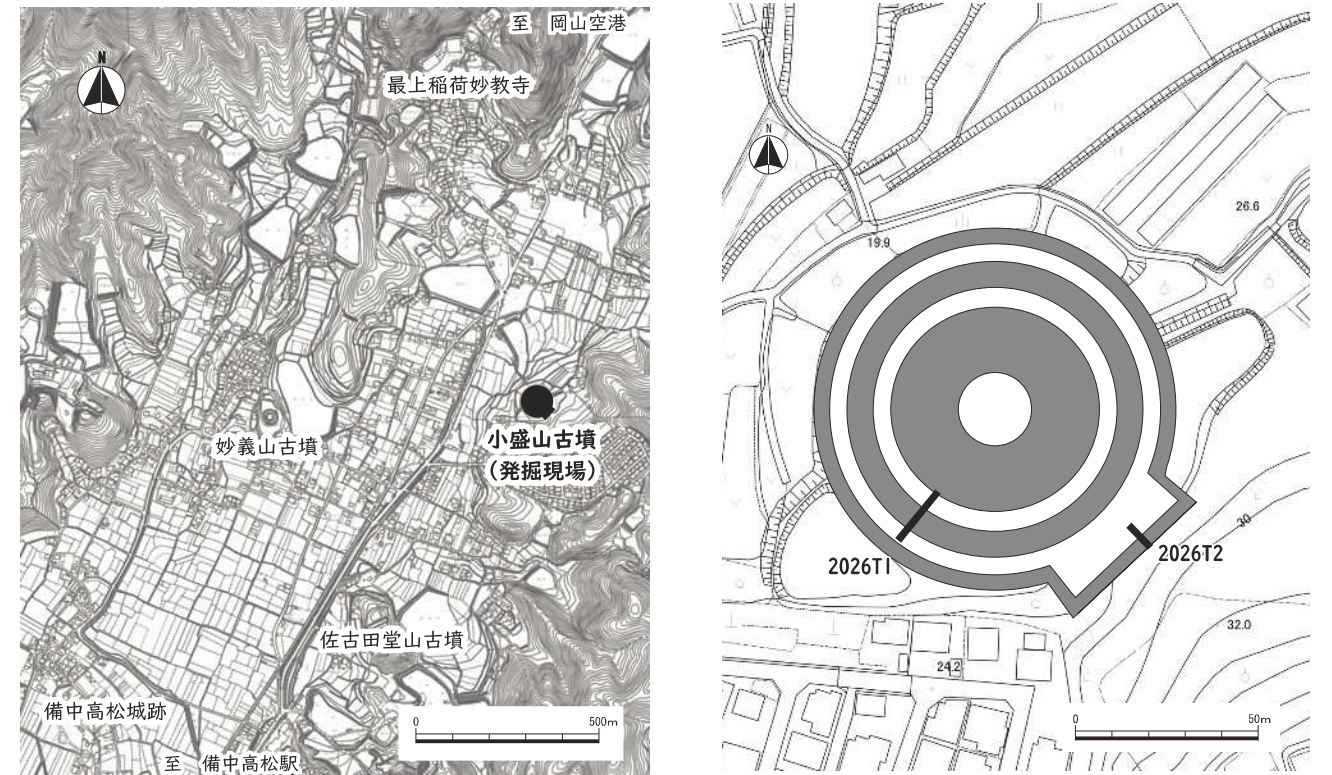


図1 小盛山古墳と周辺の古墳・トレンチ配置図